

日本に首都機能を移転した政治都市をつくる

社会班:迎 陽之介、武原 快、高島 侑杜

要約

本研究の目的は東京に一極化した政治の中枢機関を分散することである。現在の東京には国会や内閣府、最高裁判所、16の官庁、省庁が存在している。この状態で東京に大災害が起き、これらの機関に大損害が出ると、日本の政治が正常に働かなくなってしまう可能性がある。そこで我々は新たな新首都を作り、政治機関を分散することがこの問題の解決策だと結論づけた。

1. はじめに

現在、日本は一極集中状態にある。国会、各省庁、裁判所など国の政治の中枢機関のほぼ全てが東京に集中している。このままでは東京が災害に見舞われると災害による被害のみだけでなく、経済や国の方針等あらゆる活動が止まってしまう可能性がある。そこで、我々は比較的自然災害に強い土地に新たな政治都市をつくれれば良いのではないかと考えた。また、その政治都市を中心に新たな経済圏を形成することで、東京への一極集中も解消されるのではないかと考えた。政治都市をつくる土地は自然災害に強く、他地域とのアクセスが良い等様々な条件がある。本研究では、東京への一極集中を是正し得る政治都市を、新たに置くべき場所を調べることにした。

2. 研究方法

すでに政治都市を有している国の事例(ここではキャンベラとブラシリア)の地理的特徴や政治都市としての構成、他の主要都市との関連性などから政治都市に適した条件を定め、日本国内でその条件にあてはまる都市を探した。

《研究1》キャンベラ

- ① 地理的条件:cfb(地中海性気候)、少し内陸に位置
主要都市のシドニー、メルボルンの間
(シドニーから車で3時間程度)
- ② 都市構成:オーストラリア連邦議会、首相公邸、オーストラリア高等裁判所(最上級裁)など
- ③ 移転経緯:1901年、イギリスからの独立時におこったシドニーとメルボルンの首都誘致を巡る争いの妥協案として選ばれた。



《研究2》ブラジリア

- ① 地理的条件:Aw(サバナ気候)ブラジル高原、内陸に位置
主要都市のリオやサンパウロからは遠い
(リオから車で16時間程度、リオ～サンパウロは5時間程度)
- ② 都市構成:国会議事堂、ブラジル最高裁、大統領官邸、各国大使館など。
- ③ 移転経緯:1960年、沿岸部と内陸部の格差の是正を目指し、内陸に文化圏を造るために建設された。



3. 結果

《実験1》

首都は内陸の温帯地帯にあり、主要な政治機関はキャンベラに集中していた。また経済や文化を担う都市であるメルボルンやシドニーからは少し離れた場所にある事がわかった。

《実験2》

首都は内陸の乾燥した地域にあり、主要な政治機関はブラジリアに集められていた。旧首都であるリオからは比較的遠い場所にあり、沿岸部と内陸部の経済格差の是正が移転の大きな目的であった。ブラジル高原の上に位置し、住宅や施設などの立てやすい広大な土地がある。

4. 考察

2カ国とも首都は広大な土地を持つ内陸であること、国内の主要経済都市からある程度の距離があること、生活にある程度適した気温や降水量が重要視され、政治都市として国の最高裁や首相、大統領の官邸などの主要機関が置かれていると考えた。またブラジリアのように新しい政治都市を造ることで新たな経済圏が生まれ一極集中状態の是正にもつながるのではないかと考えた。

5. 結論

オーストラリアにおけるキャンベラとブラジルにおけるブラジリアの例から、我が国日本における「内陸」、「ある程度の広さの土地」、「東京からのある程度の距離」、「生活に適した気温」と日本国内ならば考えておきたい「災害が比較的少ない」、「他地域からのアクセスが良い」などの条件を鑑みると、我々は日本においてそのような特徴を兼ね備えた都市は滋賀県の近江八幡市であるのではないかと考えた。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

国土交通省;『国会等の移転ホームページ』

<https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/information/basic/zenbun1-3.html>

閲覧日2021年12月8日

国土交通省:『ブラジリア首都移転の目的と経緯について』

https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/service/newsletter/doc/i_02_70_2.pdf